

入試実施委員会

1. 入試業務全般に関わる事項

本年度は新人文社会科学部、3学科体制の下で2年目の入試となった。前年度の経験をふまえて、限られた教員数の中で、事務方と協議を重ねてルーティン作業のマニュアル化と合理化、効率化を追求しながらミスのないよう入試実施業務に望んだ結果、いずれの業務においても入試ミスは発生しなかった。

本委員会の業務は、大きくは二つに分けられ、一つは、試験当日の業務である。当日の業務は、事前に策定された実施計画に基づいて、マニュアル通りに着実に実行することができた。もう一つは、各種入試前の準備作業と、入試後の合格手続き完了までの一連の作業である。この作業については、今年度から一般入試でインターネット出願を導入した結果、願書受付業務にかかる一部作業が合理化され、入試実施委員会の労力も一部削減できる可能性が生まれたが、出願する受験生にとっても初めての体験だったので、問い合わせへの対応も含めて新たな対応が生じたりして、学部レベルでの作業効率化には必ずしもつながらなかった。インターネット出願の導入等による作業効率化、入試実施業務の労力削減は今後に残された課題である。

2. 各種入学試験の実施について

(1) 3年次編入学試験について。人文コミュニケーション学科で志願者がおり、7月1日（土）に試験を実施した。試験前日の試験場の設営は担当の事務方が行い、設営終了後に入試実施委員長が確認した。試験当日は、人文コミュニケーション学領域の実施委員と面接委員が当該学科長と協力して業務にあたった。

(2) 推薦入学試験について。現代社会学科、法律経済学科、人間文化学科の3学科体制で、11月25日（土）に試験を実施した。当該入試については、平成20年度以降、本委員会が準備段階から担当しているが、面接・採点の要領作成等については入学試験企画委員会が担当している。そのため今回も両委員会で十分な連携体制を整え役割分担を再確認して業務を実施した。入試実施業務に必要な教員数が確保することが難しくなってくる中で、各種学会の開催時期と重なるために当日の面接業務を担当できない教員も少なくなく、一面接室あたりの受験生がかなり多くなり、面接業務が長時間にわたる結果となってしまった。

(3) 大学入試センター試験について。1月13日（土）と14日（日）の2日間にわたり実施した。大きな事故、混乱もなく、ミスも発生させることなく、業務完了した。

(4) 私費外国人留学生試験について。現代社会学科、法律経済学科、人間文化学科の3学科に志願者がおり、2月7日（水）に試験を実施した。

(5) 一般入試前期日程について。2月25日（土）に、現代社会学科、法律経済学科、人間文化学科の志願者に対して実施した。

(6) 帰国子女特別選抜入学試験について。1名の志願者がおり、2月25日（土）に実施した。

(7) 一般入試後期日程について。3月12日（月）に、現代社会学科、法律経済学科、人間文化学科の志願者に対して実施した。

(8) 合格者発表準備等の、入試実施後の一連の作業について。後期日程入試日の翌日の後期欠席者リストの確認作業に始まり、後期合格者判定資料確認作業、後期合格通知発送準備作業、等の一連の作業が3月末まで続き、本年度の入試実施委員会の作業は、最終的に新年度の4月9日（月）の合格者等データチェックリスト確認作業で終了した。

平成29年度入試実施委員会委員長：渋谷敦司